未来像は「田園文化都市」

基本構想の策定すすむ

課長、係長で専門部会スタート

現在、南国市ではその未来像を「田園文化都市」において、基本構想の策定作業を進めています。

ここで、その目的と基本方針を紹介いたします。

市は古くから、農業で発展してきたもので、緑と太陽と水に恵まれ、二期作で有名なわが国固有の農業地域を形成し、今日に至っています。

しかし、近年、高知市の影響を受け、地域の「構造変化」が急速に進み、今後もさらにこれが進むことが予測されますが、市の歴史的、地理的条件を十分考察したうえで、市民福祉を向上させるために、科学的な長期計画を樹立するものです。

五つの柱

「田園文化都市」の五つの柱は

(1)安全で健康な住みよい都市
(2)一千年の歴史と伝統、高い文化遺産を誇る都市
(3)緑と光と水を守り育てる都市
(4)均衡と調和のある産業都市
(5)老人、子ども、障害者を守る福祉都市

策定にあたって七月九日には「財政」「産業建設」「教育民生」の三部門からなる専門部会が発足、課長会二十四名、係長会五十九名で構成されており、現状と将来がどうあるべきかを九月までに意見交換し要約する計画です。

また、高知大学の先生に依頼してすすめていた市の行財政分析、水資源調査などもあわせて、六十年をメドに基本構想をつくり、計画案を来年の三月議会にはかる計画です。

計画の策定、構想を実現するためには、市民の理解と協力なくしては不可能です。したがって、あらゆる機会、あらゆる方法で市民参加の道を開き、その意見を率直に受けとめ、長期展望にたった基本計画を策定し構想の実現に努力する――と基本構想（案）では市民参加による構想の推進をめざしています。

開発の基本方針

生活と生産の調和

市の未来像を「田園文化都市」というビジョンに求める。

経済が発展し、人間が必要以上に食糧を生産しうる段階になると自然の制約を離れ、都市を形成しはじめます。したがって、都市と産業は密接な関係にあり、すべての都市が、何らかの形で産業の消長とその命運をともにしています。市もまた、基幹産業である農業とともに成長してきました。

しかし、高度経済成長政策は、産業中心、とくに工業の生産第一主義にはしり、その結果、新しい都市問題が発生し、人間生活を根底からおびやかすにいたっています。

南国市の開発方針は、あくまでも都市問題の発生を未然に防止し、共同生活を通じて文化を発展させ共通の福祉を増進するとともに、生活と生産の調和をはかりつつ計画的に安全快適な健康都市の建設を進めます。

また、とくに人口問題について無計画な人口増加は都市問題発生の根元となるもので、都市機能を麻痺させることとなるので、無理のない人口を想定し、それ以上については抑制する方針です。

これらの施策を推進するにあたっては、国、県の開発構想とも十分調整し、長期的展望に立って開発発展の方向を適確に把握し、これまでの発展をさらに拡大、持続します。

また、市の独善であってはならないので、できうる限り隣接市町村との協調をはかる広域的な行政配慮が必要です。

発展の方向

市は高知市に隣接し、県の中央部に位置しており、紀貫之の国府以来、一千年の歴史と伝統をもっており、土佐政治、文化発祥の地です。

このように、古くから文化が花を開き、長い歴史と伝統を保持し得たのは、温暖な気候とあいまって、広汎、肥沃な土地、そうして物部川、国分川水系の豊富な水など自然条件の恩恵を受けたからであり、こんごもさらに発展する可能性を秘めています。

ミニ広報　高知空港専用道路にヤシとシュロを植樹（36年）

ただ、高知市に隣接しその生活圏にあるため、こんご地域の構造変化が進むことが充分予測され、また人口の増加や開発も予想されるので、これを抑制し、環境保全に努め、最良の田園文化都市をつくりあげなければなりません。

また、市の総面積の約五十%は山地で占められており、豊かな緑に恵まれ、さらに数多くの文化遺産に恵まれているなど、住宅都市、学園都市、さらにはレクリエーション、スポーツの場としての環境は大切です。

本市の将来は、これらと調和する伝統ある田園文化都市としての道を進むことになるでしょう。

安全で健康な住みよい都市

市の未来像を実現するため、次の基本的な諸項目を支柱として政策を展開します。

「人は誰でも自分の生れ育った郷土を愛し、希望に満ちた人生を送りたいと願っています」このささやかな願いすら享受できず、住みにくいけん騒と公害の「まち」に化そうとしています。

せめて南国市だけでも、このささやかな願いが実現できるような市にします。そのために、各種公共施設の完備、公害の根絶など、生活優先の社会を確立し、すべての市民がひとしく安全、快適で豊かな生活を営むことのできる南国市をつくりあげる。

高い文化都市

南国市には、長い歴史と伝統、数多くの文化遺産があります。これはわれわれの祖先が、長い間の建設と文化活動の努力の中から生み出したものであり、貴重な国民的遺産でもあります。

近年の都市化の進展は、乱開発と人間構成の多様化を生み、このために歴史と伝統への認識はうすれ、文化遺産は無謀に破壊されようとしていますが、これら貴重な遺産の保存と保護を強化し、歴史と伝統、高い文化遺産を誇る南国市をつくる。

緑と光と水を守る

緑と輝く太陽、そして豊富な水は何にも勝る財産です。都市化の進展に伴ないこれら貴重な財産はまさに破壊されようとしている。市民に健康、快適な生活を保障するためにも、これを永遠に守り育てるのは行政の責務であると考え、環境保全条例を定めこれの破壊防止のため積極的に努力します。

調和のある産業都市

水稲二期作が示すとおり、農業のまちとして発祥した南国市は田園都市としての風格を形づくっている。

高度経済成長政策は、工業第一主義に走り、そのため農業は未曽有の混乱期を迎えた。しかし今日世界的な食糧危機が叫ばれると再び脚光をあびようとしている。本市にも若干の新しい工業が進出してきたが、田園都市としての性格を変るに至っていない。

農業を守り育てるためにも、工業化は適当でないので田園文化都市を指向する本市としては、企業の誘致は原則として行なわない。

なお、現存する工業は住民生活との調整をはかりつつ工業地区の整備をはかる。

老人・こども・障害者を守る都市

福祉施策は必らずしも、特殊な境遇にある人たちに限られたものでなく、全市民がその恩恵を受けるべきです。しかし、生活力のとぼしい老人、障害者や子どもには、常人なみにその恩恵を享受することができないので、政策的に保護が必要です。

老人については、長い年月郷土の発展のためにつくされてきたので、余生はしあわせに送っていただくため、物質的な面はもとより人間的な愛の手をさしのべたい。

次代のにない手である子どもは、家庭の愛情の中で成長することは勿論ですが、一般社会にもその責任がある。しかし現状は自然の破壊、交通事故の危険など健やかに育つための遊び場もない。

行政は、家庭や社会で欠けているものを補ない、心身ともに子どもらしく健やかな成長をとげるよう積極的な施策を講ずる。

身体障害者については、社会復帰のための積極的な施策を講じ、生きるよろこびを与える。

ミニ広報　第一回市美術展が開かれる（36年）